エコチル調査の今後の展開について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本DOHaD学会事務局 公開日: 2019-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新田, 裕史 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003598

DOHaD 研究（ISSN 2187-2597）
2019 年 第 8 巻 第 3 号　6 頁

シンポジウム１「コホート連携」

エコチル調査の今後の展開について

新田 裕史

国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康研究センター

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」はさまざまな環境汚染物質と妊娠期から子どもの成長・発達、健康に関わる種々のアウトカムとの関連性に解明することを目的としている。環境要因の評価は主として生体試料中の化学物質の分析によって、環境要因以外の遺伝要因、社会要因、生活習慣要因など修飾因子や交絡因子となり得る各種の要因についても質問票調査等で適切な評価を行う設計になっている。子どもが 13 歳に達するまで調査が継続される計画となっている。

調査対象者（妊婦）のリクルートは 2011 年 1 月から開始された。2019 年 5 月時点で参加者の子どもの年齢は約 4 歳から 8 歳の範囲になっている。今年度から、小学 2 年生になった参加者を対象として学童期検査（身体計測、PC を用いた精神神経発達検査、採尿等）を実施する計画となっており、その準備を進めている。5 千人規模で実施している詳細調査では 2 歳及び 4 歳時点の採血を伴う医学的検査・精神神経発達検査をすでに実施し、6 歳の医学的検査を開始している。今後 2 歳毎に同様の調査を実施する計画となっている。

妊娠・出産期に収集した生体試料中の各種化学物質の分析を進めているが、今後も優先順位を検討しながら、分析対象を拡大していく予定である。また、子どもの脱落乳歯の収集に着手しており、それを用いた化学物質の分析についても検討している。一方、臍帯血をはじめとする試料に基づいた遺伝子・ゲノム解析計画を立案中であり、倫理審査プロセスに載せるべく検討を進めている。

これら各種アウトカム、環境要因、ゲノム情報等のデータ収集・解析を進めながら、エコチル調査で収集したデータの活用について、環境省とも協議しながら、進めて行きたいと考えている。